

國學院大學学術情報リポジトリ

話し言葉における接続助詞「けど」類の使用実態と その分析：日本語コーパスを用いて

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 李, 競睿, LI, JINGRUI メールアドレス: 所属:
URL	https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/2525

論 文 要 旨

学籍番号	203221	氏 名	LI JINGRUI
論 文 題 目：話し言葉における接続助詞「けど」類の使用実態とその分析 ー日本語コーパスを用いてー			
近年日本語教育において、会話面が重視されるようになってきた。日常生活で頻繁に使われる「けど」類は、日本語学習者のコミュニケーションスキルとして重要な一つである。 本研究は、接続助詞「けど」類の諸用法の中でも、コミュニケーション上重要だと思われる、前置き機能をもつもの、および、「んです」に続けて用いた「んですけど」の特に文末用法に注目した。研究方法としては、BTSJ 日本語自然会話コーパスを用いて、前置きの「けど」類、および文末の「んですけど」の使用実態を観察し、分類を試み、特徴等について考察した。 その結果、前置きの「けど」類については、「けど」を含む形で固定表現になっている定型的なタイプと非定型的なタイプの2種類に大別し、さらに、後者については、以下の3つの用法に区別して捉えるのがよいと考えた。 A：トピック提示 「けど」の前に述べたことをトピックとして、「けど」以下の部分で、そのトピックについて述べるタイプ B：補足的な情報を提示する 主な情報を述べていくにあたって、補足的な情報を付け加えるタイプ。「けど」節を欠いても、主な情報が伝わる上での支障はないが、このような補足することで、聞き手の受け入れやすさを高める働きを果たす。 C：後続内容につなぐ 〈それまでの経緯を説明するなど、本題に入る準備をしてきて、その説明の終結部に「けど」を付け、本題につなげる〉〈後続内容の重要なポイントを先取りして述べたり、後続内容の予告機能を果たしたりして、方向性を示す〉〈これから述べることについて、まず「その情報をどのような方法で入手したか」についての一種の注釈を付けてから、後続のメインの内容につなげる〉など、種々の場合があるが、趣旨は、「相手が理解しやすいように」とか「唐突感がないように」といった、相手への配慮である場合が多い。 また、文末表現の「んですけど」は、話し手が自分側の状況を提示して「んですけど」を付けることにより、〈話し手の期待することや、その期待に応える協力を求めていること〉が伝わる、働きかけ性をもった表現として使われることが多い、利便性の高い表現である。 以上のように、前置きの「けど」類や文末の「んですけど」は、相手に配慮しながら円滑に会話を進めることができるコミュニケーションツールであり、日本語学習者にとってその習得は重要だと考えられる。			
キーワード：「けど」類、「んですけど」、前置き表現、定型的な前置き表現、非定型的な前置き表現			